

講義名	生活構造論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	森脇 丈子		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 4時限		
	2017年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2017年度 人間社会学部 観光学科 / 2017年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2017年度 経済学部 経済情報学科 / 2017年度 経済学部 経済学科 / 2017年度 商学部 マーケティング学科 / 2017年度 商学部 経営学科 / 2016年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2016年度 人間社会学部 観光学科 / 2016年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2016年度 経済学部 経済情報学科 / 2016年度 経済学部 経済学科 /		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		講義コード	14045

主題と概要

この講義では、私たちの日常生活が経済や社会構造などどのようなかかわりをもっているかについて、具体例ならびに理論をとりあげ、学んでいきます。

社会の基礎的な仕組みを知り、私たちの生活に影響を与える経済的要因にはどのようなものがあるのか、経済的事象はいかに引き起こされてくるのか、社会と個人や家族はどのようなかかわりを持っているのか、生活環境や雇用条件はどのようにつくられ、変化してきているのかについて学んでいきます。また、壊れず、壊されずに生きているにはどういった力が必要かについて、いっしょに考えていきます。

新聞記事・DVDなどを適宜用いながら講義をおこないます。

毎回の講義の中で受講生との議論をおこないます。

到達目標

1. 私たちの生活と経済活動との結びつきについて理解します。
2. 家族構成や就業構造や生活時間の変化について、また、それらの変化が現代社会にどういった影響をもたらしているかについて理解します。
3. 働くことのかかわりで、経済の仕組みや法のあり方や知っておくべき知識について学びます。
4. 働き方や雇用条件と生活との関係について学び、よりよい暮らしのために自分の意見を持てるようになります。

提出課題

なし。

授業のなかでしばしば宿題を出します。次週の授業にむけて準備してください。宿題は口頭で発表してもらいます。

評価の基準

授業での態度や発言（30%）、定期試験（70%）による総合評価でおこないます。

履修者数によって、評価方法を修正する場合があります。

履修にあたっての注意・助言他

授業中に学生に質問を出し、発言を求めます。

新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事や企業活動などに関する情報を日々収集しておいてください。

第1回目の授業ガイダンスに必ず出席し、授業中の約束事をしっかりと理解したうえで、受講してください。

授業中の私語、スマホの利用、教室への勝手な出入りを禁止します。

関連科目として、「経済学入門」「消費文化論」「消費者問題論」の受講を勧めます。

教科書

・「使用しない」。

プリント資料及び参考文献

授業の出席者には、プリントを適宜配布します。

参考文献

- ・山野良一『子どもの最貧国・日本』2008年、光文社。
- ・松沢裕作(2018)『生きづらい明治社会 不安と競争の時代』、岩波ジュニア新書
- ・仲上哲編著『「失われた10年」と日本の流通』2009年、文理閣。
- ・辻信一編著『GNH もう一つの豊かさへ、10人の提案』2008年、大月書店。

授業計画

- 1 授業の内容紹介と授業の進め方について
- 2 就業構造の変化1：戦後の日本経済 高度経済成長期まで
- 3 就業構造の変化2：戦後の日本経済 低成長期以降
- 4 就業構造の変化3：日本社会の発展と世帯構成の変化
- 5 就業構造の変化4：女性の職場進出、「専業主婦」の誕生
- 6 平成不況のもとでの雇用と生活1：1997年以降の経済状況
- 7 平成不況のもとでの雇用と生活2：雇用環境の変化とその諸要因
- 8 平成不況のもとでの雇用と生活3：若年層をめぐる状況
- 9 格差社会の諸様相
- 10 生活時間、生活費分析からみた生活構造
- 11 若者と雇用環境の変化(1)
- 12 若者と雇用環境の変化(2)
- 13 少子高齢化社会のもとでの生活：少子化、子育てストレス
- 14 収入と支出のバランス
- 15 まとめ

予習・復習

毎回の講義終了時に、次回の範囲とそれに関連する予習項目を提示します。

その日の授業で扱った内容を基にして、次回の授業開始時に復習問題を出します。口頭で答えられるよう準備しておいてください。

備考

授業中の携帯やスマホの利用、私語など、授業態度の悪い人には退室を求めます。